

## 令和3年1月7日～11日大雪に係る交通対策の検証会議（第1回）議事要旨

- 1 日時 令和3年1月21日（木）11:00～12:00
- 2 場所 富山県民会館302号室
- 3 出席者 新田知事  
蔵堀政策監、砂原危機管理監、中谷観光・交通振興局長、竹野生活環境文化部長、  
江幡土木部長  
田中観光・交通振興局次長・総合交通政策室長、武隈生活環境文化部次長  
式庄防災・危機管理課長、奥田防災・危機管理課課長、牧山広報課長、村岡県民生活課長、  
金谷道路課長  
大久保県警察本部警備部首席参事官・危機管理対策官
- 4 挨拶（新田知事）
- ・ 1月7日から11日にかけての大雪は、急に降雪量が増え、24時間降雪量も観測史上最多を記録、最深積雪も35年ぶりに100センチを超え、県民の皆様の生活に大変な影響を及ぼした。
  - ・ 今回の大雪被害、特に車の渋滞・立ち往生、公共交通機関のストップ、この交通面にフォーカスして今日の検証会議を開き、今後につなげていくのが目的である。
  - ・ 今回は、まず庁内で時系列に情報共有し、何が起きていたのかをしっかりと把握したうえで今後に備える。
  - ・ 2月上旬には、有識者にも入っていただいて、さらに議論を深めていきたい。そして、2月中下旬を1つの目途としてとりまとめを行いたいと考えている。それぐらいのスピード感をもってやっていく。まだ冬は続く。今シーズン、そして今後に向けていきたい。

## 5 議事概要

### 令和3年1月7日～11日大雪に係る交通対策の検証について

#### (1) 関係室課説明

- |           |                                       |
|-----------|---------------------------------------|
| ①県民生活課    | 資料1 令和3年1月7日～11日大雪に係る交通対策の検証スケジュール(案) |
| ②道路課      | 資料2 R3.1.7(木)～11(月)の大雪時における幹線道路の状況    |
| ③総合交通政策室  | 資料3 大雪による公共交通機関への影響                   |
| ④防災・危機管理課 | 資料4 大雪被害に対する危機管理対応等の経過                |
| ⑤広報課      | 資料5 広報課における令和3年1月7日～11日大雪時の対応について     |

#### (2) 意見交換

- 道路除雪に関して、現場レベルでは除雪担当者や担当職員はできる範囲で対応していた点は、ご理解いただきたい。道路除雪の出動のタイミングについて、様々なご意見があるが、日中の除雪出動について、市街地と郊外に分けて考える必要がある。市街地であれば、交通量が多く店舗の出入りのフォローも必要。除雪は通常数時間行われるが、その間の交通誘導など大変困難な面がある。富山小杉線など長時間の滞留を起こしたことについては、何らかの対応を講ずるべきと考えている。ある程度交通の阻害があっても除雪が可能な方法はどのようなものがあるか。ポイントはトラックのスタック対策になると思う。今後議論していく必要がある。
- 今回の気象条件であれば、除雪レベルの高い高速道路でも立ち往生が発生した中で、果たして一般道で除雪をしてもスタックが防げたのかどうかは疑問が残る。除雪をすると交通を遮断することになり、その間に降雪が激しくなるとスタックがまた発生する。そのようなことも考えて議論していかなくてはならない。
- 大雪の中、警察署には多くの受電があり、それに対応していく難しさがある。今後も出来る限りの範囲の中で、除雪に関する支援をしていきたいと考えている。

- 情報収集、発信について気づいたこと。1月8日夜に県庁に戻り、道路課に顔を出すと、道路除雪や渋滞に関する苦情が殺到しており、担当職員は電話対応に追われていた。土木センターや関係機関への連絡調整業務に相当支障が出ていたと考えられる。10日に電話相談窓口を広報課に設置することで、道路課への苦情を分散することができた。
- 相談の中には、一人暮らしのお年寄りが家から出られないという案件があり、速やかに市町村に連絡し対応いただいたこともあった。一般的な苦情や相談のほか、長時間にわたるクレーム、一方的に怒鳴りつける人も多くいる状況であった。緊急度の高い相談がクレームの山の中で埋もれてしまったり、そもそも電話が繋がらないといったこともあったと思われる。対応する職員の身体、メンタルにも大きな影響があると考えている。実際に、担当した職員の実名をネットにあげて誹謗中傷した事例もあったと聞いている。おそらく当該職員は相当まいっている。このような大雪の場合、相談苦情も含めた情報のトリアージが必要と感じた。
- 情報発信について、報道機関にも協力いただき、感謝している。一方、家から一歩出してしまうと情報収集の頼りになるのはスマートフォンしかない。SNSやウェブサイトを用いてスマホ向けに情報発信、スマホ対応の画面として見やすい構成とすると、アクセスが集中し、サーバーがダウンするリスクも考えなければならない。各機関、関係事業者もしっかり検証する必要がある。
- 地域ぐるみ除排雪事業で除雪機械購入の補助をしている。今回きちんと地域の除雪がされていたところもあれば、全くできていなかったところもあると聞いている。自分でできることは自分でやることも大事。昔、雪が多い時は、車にスコップを積むのは当然だったが、近年の暖冬で自分は大丈夫だという気持ちが県民にもあったのではないかと。万が一に備える心構えを持つのが危機管理では大事。
- 県民の皆様へお願いするべきところもいろいろあると思うが、第一義的には我々の務め。まずは幹線道路を通すのが大事。2,300kmの管理道路の中でも優先順位をつけてやっていく必要がある。あわせて、小学校の通学路の除雪も優先的にやっているが、今回の大雪では追いつかない部分があり、地域の皆さん、PTA、自治会にも協力していただいた。
- 今後の検証は、4つのポイントについて進めればと考えている。
  - 1点目は、道路の除雪体制。国道、県道、市町村道があるが、特に県と市町村の除雪の連携を検証する必要がある。県道だけ除雪しても、市道が詰まっていれば県道にさらに車が流入し除雪が困難になる。市町村道を含めた全体として、どの路線を除雪して通すかということを考える必要がある。また、通常時と大雪時と同じ除雪体制にあること、この点についても検討が必要。日中と夜間、市街地と郊外の除雪、スタック車両の対応についても検討が必要。
  - 2点目は、積雪情報や道路情報をどのように把握していくかという点。特に道路については路面監視カメラの箇所が59箇所が良いのか、あるいはカメラの精度、その点の検証も必要。
  - 3点目は、公共交通について。大雪の際の公共交通、どこを優先して運行するのか、事業者の判断だけに任せるのか、あるいは、あらかじめどの区間を優先的に通すように努力していくのかを検討していく必要がある。個人的意見として、富山ー高岡間をどう動かすか、人口や交通流動も多く優先的に動かす必要があると考える。
  - 4点目は、県民への情報提供をどうしていくか。車へのスコップ搭載のお知らせもそうだが、いざ雪が降り始めた時に、どういった情報をどのような手段で提供していくかということ。今回ツイッターも活用したようだが、それで、本当にうまく伝わっていたのかという点について検証する必要がある。
- 今回の会議で庁内の情報共有は進んだ。今後、外部の有識者の意見も交えて、今後、最終的なとりまとめに向けてしっかりと内容を構築していきたい。